

したことをおもい出してかこう（１年）

かきたいことを一つえらんで

●指導目標

経験したことや、見たことの中から題材を選び順序をたどって、よく思い出して書く。

- 経験したことや見たことを思い出し、わかりやすい文章を書く。（書く）

●教材について

平仮名・片仮名や漢字の学習が進み、絵日記を書いたり視写をしたりすることができるようになってきた一年生のこの時期には、いろいろなことを話すことができる。しかし、思いつくままに話すため、その内容は事実の羅列になったり話がとんだりしてしまうことがある。本単元のよく思い出して「書く」学習ができるようになることは、その思考のうえでよく思い出して話すことにもつながっていくものと考ええる。

思いつくままに文章を書いている一年生に、「何を」「どのように」書いたらよいかという指導は大切であると考えている。

作文例は、妹を思いやる作者の思いやりが伝わってくるので、読者の心を耕す意味でも、ふさわしい作品といえよう。伝わってくるものを感じられるのであれば、自分のもっている思いを伝えようとするにつなげていくものと信じている。

（１）「発見ノート」の活用

低学年の児童の作文は、とかくつい最近のことを題材にすることが多い。何を書いたらいいかわからないし、なんのために書くのかわからないので、記憶に新しいものを選ぶのではないかとされる。そこで、それぞれに「発見ノート」を持たせ、日常生活における体験を書き留めておく習慣をつけさせたい。登下校・学校・家・児童館などで、見たこと・聞いたこと・初めて知ったこと・心を動かされたことを、簡単に書き留めるよう習慣づける。

作文例「いもうととおふろにはいったよ」は、ごくありふれた生活の経験が題材となっているため、特別なことでなくても書いていいのだという安心感を得る。なにげない日常の中に、作文の題材になることがたくさんあることに気づく。この気づきと「発見ノート」とがリンクされたとき、作文を書こうとする意欲が増すと考えている。

（２）ミニ作文での練習

指導者から与えたある時間の中でのできごとを、順序よく思い出してメモにとったり短い作文を書いたりすることによって、自分が書きたいことを一つ選ぶことの練習をさせたい。その中では、したこと・見たことのすべてが並列ではなく、おのずと軽重が生まれてくる。短い時間のできごとの中にもくわしく伝えたいことがあり、そのためには読者にわかりやすい文章を書くことが大切である。そこで、自分が読者の立場で読み返してみること・読んだ相手からの質問はわかりにくいところだと理解して書き加えたり書き直したりすることを学習に組んでいきたい。

（３）推敲と清書

この時期の児童は、推敲したあとに清書するという活動を億劫がることもある。本単元での作文は、行間が大きく空いた特別に作った原稿用紙で、字の間違ひには×をつけて右隣に書かせたり、自由に書き加えたり削除したりすることでよいということにする。

もちろん、助詞・拗音・撥音・長音の書き方や原稿用紙の使い方など、覚えてほしいことはたくさんあるが、この単元では、すべてを完璧にすることよりも自由に書いて表現することを好きになってもらいたい。原稿用紙の文字をひたすら消したり新しい原稿用紙に清書したりする活動を無理強いせず、自分の作文が直すことでわかりやすくなっていくことを実感させたい。

● 学習指導計画（全 12 時間）

時	過程	学習活動	留意点、評価規準及び方法
第 1 時	課題をつかむ・見通しをもつ	- ミニ作文を書くためのメモを書く。 ・「今朝起きてから家を出るまで」のことを順番に低学年用の作文用紙にメモする。	- 先生のメモを提示し、意欲を喚起する。 関：したことを順序よく思い出し、簡単に書き出そうとしている。 （作文メモ）
第 2 時		- ミニ作文を書く。 ・したことに、見たことや話したこと・聞いたことを付け加えて作文を書く。	- 日常の朝と変わりのない一こまだが、その中から伝えたいことを見つけさせる。 書：経験したことや見たことを思い出し、わかりやすい文章を書く。 （原稿用紙）
第 3 時 （本時）		- ミニ作文を読み合って直す。 ・平仮名の表記や助詞の使い方の間違いに気づく。 ・わかりやすい文章にするために書き加えたほうがよいことを書き加える。	- グループ・ペアで読み合うことによって、お互いの文章をよりよいものにさせる。 言：平仮名の表記や助詞の「は」「へ」「を」を正しく使う。 書：間違いや直したほうがよいところに気づいたり、なおしたりする。 （話し合い・原稿用紙）
第 4 時	表現の工夫・表現を高める	「いもうととおふろに入った」を読んで、感想やよくわかることを話し合う。	- よくわかるのはどの表現・言葉によるものかを考えさせる。 読：順序よく書かれ、したことばかりでなく見た・話した・聞いたことも記述されていることに気づく。 （話し合い）
第 5 時 第 6 時		- お風呂に入ったとき、どんなことを思い出して書いているかをつかむ。 ・「したこと」「見たこと」「話したこと」「聞いたこと」を見つけ出す。 ・どのように書かれているか	- 作者が服を脱いだことや自分の体を洗ったことの文章が省略されていることに気づかせる。 読：「したこと」「見たこと」「話したこと」「聞いたこと」を的確に見つけ出し、表現の効果に気づく。 （ノート・発表）
第 7 時		- かぎ（「 」）の使い方に慣れる。 ・原稿用紙に文例を視写したり、場面を想定した会話文を書いたりする。	2 行以上の長い会話文の記述についても取り上げる。 言：かぎ（「 」）の使い方に慣れ、正しく書く。（原稿用紙）
第 8 時		「発見ノート」の中から、自分の書きたいことを選び出し、作文メモを書く。	だれにどんなことを伝えたいかという相手意識と目的意識をもたせる。

第 9 ・ 10 時	実践・ 振り返り	○ 作文を書く。 ・ 作文メモを見ながら、したことをよく思い出しながら書く。	書：経験したことや見たことを思い出して書く。(作文メモ) ○ くわしく書くところを考えながら書かせる。記述的なことより表現や内容を大切にさせる。 書：順序をたどってわかりやすく書く。(作文)
第 11 時		○ グループで推敲する。 ・ お互いに読み合い、質問やアドバイスを受け合って、くわしく書くところを知る。	○ 行間の大きい原稿用紙に書き加えたり削除したりして、簡単に直させる。 書：読者にとってさらにわかりやすい文章に直す。(作文)
第 12 時		○ 直した作文をみんなで読み合う。 ・ 鑑賞し合い、認め合う。	○ それぞれのよさを見つけさせる。日常のなにげないことが題材になることに気づかせる。 書：作文のよかったところを認める。(発表)

● 本時の展開（本時 3 / 1 2）

目 標 今朝の家でのできごとを書いたミニ作文を読み合って、お互いの質問やアドバイスから直したり書き加えたりして、わかりやすいミニ作文に変えることができる。（書く）

● 展開例

学習活動	指導上の留意点	評価・支援
1. 本時のめあてを確認する ミニ作文を読み合い、さらにわかりやすい作文にしよう。		
2. 自分のミニ作文のテーマを確かめ、その作文を読む。	○ わかりやすさの要素には、表記的なことと表現・内容的なことがあることをおさえる。	○ まだ拾い読みの児童には、読んであげる。
3. 自分で気づいた点を修正する。（赤鉛筆）	○ 読み手の立場で、声に出して読ませる。	書；読み手の立場でわかりやすくなるよう、自分で直している。（原稿用紙）
4. グループ・ペアで交換し合い、読み合う。	○ 意図的なグループ・ペアで活動させる。	○ グループ力の弱い場合は指導者も活動に加わる。
5. 質問に答えたりアドバイスを聞いたりして、直したり書き加えたりする。（青）	○ 机間指導をして、わかりやすくなったものものをチェックする。	書；質問やアドバイスから、順序を考えて自分の作文を直している。（話し合い・原稿用紙）
6. 直す前と後のミニ作文を発表する。（1～2人程度）	○ くわしくなったものや順序を整えたものを意図的に発表させる。	書；ミニ作文の内容的な変容に気づいている。（発言）
7. 今日の学習の感想を話す。	○ 自分の作文がわかりやすくなったことへの喜びを感じさせる。	

三二作文メモ

三 作文

● 実践例

*文中の本人・弟・友達の名前は
ぼかしています。

年子の弟は、来年の小学校入学後の練習のため、学校近くの保育園まで歩いて登園しています。

* 題名の工夫（内容がわかるように）

